

「インターネットと人権オンラインフォーラム」登壇者発言内容要旨

- 1 スマイリーキクチさん〈基調講演者／パネリスト〉
(タレント、一般社団法人インターネット・ヒューマンライツ協会代表)
 - ・ネット上のデマにより全く身に覚えのない殺人事件の犯人として、長年誹謗中傷や脅迫を受け続けた経験をつぶさに語り風評被害の実態やSNSの危険性、トラブル対処法について理解を促した。また、ネット上の誤った情報を信じ込みどこにでもいる普通の人が中傷の加害者となってしまう危険についても重大な示唆があった。

- 2 藤川由彦さん 〈パネリスト〉
(一般社団法人ソーシャルメディア利用環境整備機構事務局長)
 - ・2020年4月に創設された一般社団法人ソーシャルメディア利用環境整備機構について触れ、ソーシャルメディア上の名誉毀損や侮辱等を意図したコンテンツの投稿等に対する取組を解説した。また、法務省及び総務省と共同で、SNS上のやり取りで悩む方に役立てていただくための特設サイト「NoHeartNoSNS」を紹介し、SNSは誰かを傷つけるためのものではないというメッセージを発信した。
※ 参考：ハートがなけりゃSNSじゃない！ <https://no-heart-no-sns.smaj.or.jp/>

- 3 前園真聖さん 〈スペシャルゲスト〉
(元サッカー日本代表)
 - ・前園氏が出演するネットいじめに関する短い映像（Jリーグ制作）を紹介した後、スポーツ界でも、誹謗中傷に心を痛めている選手がいること、また、ヘイトスピーチや外国人に対する人種差別が問題になっている状況について語り、誰かを励ましたり、応援したり、誰もが楽しく幸せになる発信をして欲しいと訴えた。

- 4 佐藤佳弘さん 〈コーディネーター〉
(情報文化総合研究所所長、武蔵野大学名誉教授)
 - ・インターネット上で公開された書き込みや個人情報などが、一度拡散してしまうと完全に削除することが難しい事例を挙げ、削除手続の改善が必要であると訴えた。また、一人で悩む被害者が相談できる窓口についての広報の必要性にも言及した。インターネットは大変便利な道具であるが、使い方を誤れば危険な道具にもなることについて触れ、「道具は使い方次第である」と締めくくった。